



能忍寺たより

行事紹介

○春季彼岸会

春のお彼岸は、春分の日とその前後三日間の期間のことをいい、多くの寺院で法要が努められるなど、大切な仏教行事の一つです。お盆（盂蘭盆会）などとは違い、お彼岸は日本独自の行事で、奈良時代から行われるようになったとされています。仏教伝来後、日本では西方のはるか彼方に浄土の世界（彼岸）があるとする「西方浄土」の考えに基づき、太陽が真東から出て真西に沈むお彼岸の時期は、浄土への道しるべができる時期とされました。また、昼夜がほぼ同じ長さになることから、一年の中でこの世（此岸）と浄土（彼岸）との距離が最も近くなり、思いが通じやすくなることも考えられています。この二つの思想が結びついたことで、ご先祖様への供養を行いつつ、修行により自らを見つめなおす時期としてお彼岸の行事が定着していきましました。

秋のお彼岸と併せて、この時期にお墓参りをされる方も多いのではないのでしょうか。ぜひお寺においでくださいね。

今月のことば

○万法唯心(まんぼうゆいしん)

「万法唯心」とは、「すべての現象は心から生じている」という意味の言葉です。これは私たちそれぞれが持つ心が今の現実を作り出しているという深い洞察を示す教えです。特に大乘仏教において重視されている概念であり、『華嚴経』などの経典にも説かれ、唯識思想の根幹をなしている考えでもあります。

日常生活の中で万法唯心の実践において重要なのは、自分の心の状態に気づくことです。自分が現在抱えている思考や感情が現実の体験にどのように影響しているかを客観的に観察してみることが第一に始めることです。次に意識的に思考や感情、行動を良い方向に向けていくことが重要です。感謝に気持ちを持つ、人に親切にする、前向きな言葉を使うなど、小さな実践を積み重ねることで心の向きを徐々に変えていくことができます。これにより心の平穏を得ることができるよう。

○ラム あれもこれも仏教用語

○砂糖

砂糖の発祥地はインドといわれており、紀元前5世紀頃のインドの仏教経典には、既に砂糖に関する記述が見られたとのことです。日本へは8世紀の奈良時代に鑑真和尚が唐から持参したという説があります。大変貴重なものとされ、奈良の正倉院に保存されている「種々葉帖(大仏に献上した葉の目録)」にサトウキビから作った砂糖の意味である「蔗糖(しょ糖)」という言葉が記載されています。サンスクリット語では *sarkara*(シヤルカラ)と書き俗語に変化したあと、ペルシャ語やアラビア語、中世ラテン語を経て、英語の「Sugar」やフランス語の「Sucre」の語源になったともいわれています。

仏さまって？

お寺にはお釈迦さま、観音さま、不動明王、四天王などさまざまな仏像が祀られています。これらは皆、たくさんのお経の中に登場する仏さまを形にしたものです。そして物語の登場人物のように、仏さまにもそれぞれ決まった役割があり、大きく分けると「如来」「菩薩」「明王」「天部」などがあります。

「如来」は悟りを得た仏さまのうち最高位に在る存在です。サンスクリット語の「真実から来た者」という意味があり、悟りの境地にいる象徴として質素な衣を身にまとっているのが基本です。「菩薩」は如来になる前の存在で修行中のお釈迦様をモデルにしています。お釈迦様が元々一国の王子であったことから、菩薩の外見は豪華な装飾品を身に着けていることが特徴です。「明王」は如来と菩薩に次ぐ仏さまであり、仏の教えに従わない者を正しく導くことが役割です。悪を破り禪に導くため、怒りの表情をたえた武器を持つ威厳に満ちた姿が特徴となります。「天部」は仏教に帰依した古代インドの神々のことを指します。これらを起源に持つ仏さまたちは如来や菩薩など上位にいる仏さま、あるいは仏道そのものを守護することを役目としています。この他に仏教において最高の悟りを開いた高僧のことを「羅漢」といい、よく知られています。

皆様のお近くのお寺にはどんな仏さまがいらっしゃいますか？